

## (2) 魅力ある産業の創出

人口減少や多様な食生活による生産量の減少と米価が下落する中、法人化、農地集積、多様な品種の作付けや認証制度を活用した独自の販売戦略等に取り組んできました。本年の作付けから国による生産調整が廃止されますが、佐渡市農業再生協議会から平成30年産米の生産目安が提示されましたので、佐渡米の価格安定に向け、需要に応じた生産の取り組みが求められています。

水稲生産が雇用の受皿となるには、大規模化による効率的な経営が必要であることから、農作業用機械の大型化支援とあわせ、労働時間の3割を占めるといわれる水管理の負担軽減を図るため、水稲水管理システム導入による水田管理の労力削減効果を検証し、大規模経営のさらなる効率化を目指します。

かつて国中地域においては、多くの園芸作物が生産されていましたが、高齢化や担い手不足により耕作放棄地が増加しています。耕作放棄地を再生し、優れた技術を有する農業者から意欲ある若者に栽培技術を継承する仕組みを、地域と一体となりつくりあげ、園芸産地の再生を目指します。水稲の大規模経営、園芸野菜や果樹加工生

産を組み合わせた複合経営による農業サイクルモデルを構築し、産業として成り立つ魅力ある農業の確立を目指します。



若手農業者交流会での視察の様子

## 災害に強い島づくり

災害対応では、日ごろから災害予防に努めるとともに、災害応急と災害復旧への対策を着実に実施することが求められています。あらかじめ地域の事業者と協定を締結することにより、実践的な災害対応の体制整備を図るとともに、災害発生時には、これまでの経験を生かし迅速な対応がとれるよう既存の災害対応マニュアル等を適宜見直し、災害に強い安全安心のまちづくりを推進します。

## (1) 防災・減災基盤の整備

防災拠点としての機能を強化するため、市役所本庁舎の耐震補強・大規模改修工事を行い、災害対策本部となる大会議室の改修や防災機器の整備、非常用電源となる発電機や汚水槽を設置します。

また、災害時には、地域住民が自発的に活動することが極めて有効であり、自主防災組織や地域防災リーダーの育成を推進するとともに、昨年11月に新潟県が公表した、新たな津波浸水想定に基づく地域防災マップを改訂し、市民周知の徹底と避難行動等の啓発を図ります。



防災訓練での佐渡管工事組合とのライフライン応急復旧訓練の様子

## 佐渡活性化に向けた地域づくり

### (1) 移住・定住支援体制の強化

人口の減少と少子高齢化による若者世代の減少は、担い手の不足によるさまざまな産業の衰退や地域のコミュニティ機能の低下を招いています。Uターンによる移住者の増加と子育て環境の充実を中心とした人口減少対策に引き続き取り組み、生産年齢人口の拡大による世代間バランスの是正を目指しながら、地域づくりを担う人材の育成と確保を図ります。若者をターゲットにした移住・定住促進策では、平成29年度に設立した「佐渡Uターンサポートセンター」と連携しながら、仕事や住まい、暮らしの情報の提供と支援の一元化を強化し、移住の検討段階から移住後の定住に向けたきめ細やかなサポート体制の中で、Uターンによる人口の増加を図ります。



佐渡Uターンサポートセンター